

# 四半期報告書

(第72期第2四半期)

能美防災株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	5
1 【株式等の状況】 .....	5
2 【役員の状況】 .....	7
第4 【経理の状況】 .....	8
1 【四半期連結財務諸表】 .....	9
2 【その他】 .....	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	19

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年11月12日

**【四半期会計期間】** 第72期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

**【会社名】** 能美防災株式会社

**【英訳名】** NOHMI BOSAI LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 藤井清隆

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区九段南四丁目7番3号

**【電話番号】** 03(3265)0216

**【事務連絡者氏名】** 取締役経理部長 岡村武士

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区九段南四丁目7番3号

**【電話番号】** 03(3265)0216

**【事務連絡者氏名】** 取締役経理部長 岡村武士

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第2四半期 連結累計期間	第72期 第2四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (百万円)	38,171	45,670	93,833
経常利益 (百万円)	3,150	4,043	9,544
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,940	2,594	5,635
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,907	2,517	7,166
純資産額 (百万円)	61,565	68,131	66,221
総資産額 (百万円)	92,025	97,759	102,936
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	32.18	43.03	93.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	65.4	68.0	62.8
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	5,464	4,103	6,237
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△742	△977	△3,481
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△618	△608	△1,223
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	29,503	29,589	27,050

回次	第71期 第2四半期 連結会計期間	第72期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.20	27.01

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国をはじめとする新興国経済の先行きに不透明感が強まっているものの、政府による経済政策等を背景として企業収益に改善がみられる等、国内景気は緩やかな回復基調が続きました。

当防災業界におきましては、労務費や原材料価格の動向が引き続き懸念されるものの、民間の設備投資に持ち直しの動きがみられる等、市場は比較的堅調に推移いたしました。

このような環境のなか、当社グループは平成25年度から3年間にわたる中期経営計画「project27－輝く創立100周年に向けて－」を策定しており、その最終年度として積極的な営業活動に努めました。その結果、大型の工事進行基準適用物件が比較的集中したこともあり、当第2四半期連結累計期間における売上高は45,670百万円（前年同四半期比19.6%増）となりました。

利益につきましては、売上高の増加に加え、販管費率が改善したことにより、営業利益は3,979百万円（前年同四半期比32.4%増）、経常利益は4,043百万円（前年同四半期比28.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,594百万円（前年同四半期比33.7%増）となりました。

業績の内訳をセグメント別にみますと、火災報知設備につきましては、売上高は15,236百万円（前年同四半期比14.6%増）、営業利益は1,887百万円（前年同四半期比3.3%増）、消火設備につきましては、売上高は17,868百万円（前年同四半期比39.6%増）、営業利益は2,981百万円（前年同四半期比41.2%増）、保守点検等につきましては、売上高は9,870百万円（前年同四半期比3.2%増）、営業利益は1,569百万円（前年同四半期比23.3%増）、その他につきましては、売上高は2,695百万円（前年同四半期比7.0%増）、営業利益は88百万円（前年同四半期比60.6%増）となりました。

なお、当社グループの売上高は建設業界の影響を受ける部分が多いため、下期、特に第4四半期に集中する傾向があります。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、現金及び預金2,437百万円の増加等があったものの、受取手形及び売掛金6,842百万円の減少、未成工事支出金464百万円の減少、商品及び製品461百万円の減少等により、前連結会計年度末に比べ5,176百万円減少し、97,759百万円となりました。

負債につきましては、流動負債は6,937百万円の減少、固定負債は148百万円の減少となり、負債合計は前連結会計年度末に比べ7,085百万円減少し、29,628百万円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金の増加を主因として、前連結会計年度末に比べ1,909百万円増加し、68,131百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期末と比較して86百万円の増加となり、29,589百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

法人税等の支払額3,068百万円、仕入債務の減少額3,007百万円、賞与引当金の減少額1,319百万円等による流出があったものの、売上債権の減少額6,870百万円、税金等調整前四半期純利益4,037百万円等により、営業活動全体では4,103百万円の流入（前年同四半期は5,464百万円の流入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

主に固定資産の取得による支出により977百万円の流出（前年同四半期は742百万円の流出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

主に配当金の支払いにより608百万円の流出（前年同四半期は618百万円の流出）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は731百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	60,832,771	60,832,771	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	60,832,771	60,832,771	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	—	60,832	—	13,302	—	12,743

## (6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
セコム株式会社	東京都渋谷区神宮前1丁目5-1	30,598	50.30
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,345	3.86
能美防災代理店持株会	東京都千代田区九段南4丁目7-3	2,019	3.32
能美防災取引先持株会	東京都千代田区九段南4丁目7-3	1,730	2.84
能美防災従業員持株会	東京都千代田区九段南4丁目7-3	1,042	1.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,000	1.64
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	915	1.51
富士電機株式会社	神奈川県川崎市川崎区田辺新田1-1	868	1.43
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	765	1.26
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	745	1.23
計	—	42,031	69.09

(注) 当第2四半期会計期間末現在における上記信託銀行の信託業務に係る株式数については、当社として把握することができないため記載しておりません。

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 409,200	—	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 60,401,500	604,015	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 22,071	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	60,832,771	—	—
総株主の議決権	—	604,015	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権10個)含まれております。

② 【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 能美防災株式会社	東京都千代田区 九段南4丁目7番3号	409,200	—	409,200	0.67
計	—	409,200	—	409,200	0.67

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	26,940	29,378
受取手形及び売掛金	※2 32,320	※2 25,478
有価証券	2,000	2,000
商品及び製品	3,553	3,092
仕掛品	913	883
原材料及び貯蔵品	4,052	4,096
未成工事支出金	7,022	6,558
その他	3,182	3,268
貸倒引当金	△419	△331
流動資産合計	79,565	74,423
固定資産		
有形固定資産	13,393	13,300
無形固定資産	570	609
投資その他の資産		
投資有価証券	5,278	5,115
その他	4,182	4,361
貸倒引当金	△53	△50
投資その他の資産合計	9,406	9,426
固定資産合計	23,370	23,336
資産合計	102,936	97,759
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,306	4,361
電子記録債務	4,303	3,612
短期借入金	19	19
未払法人税等	3,252	1,740
賞与引当金	2,935	1,616
製品保証引当金	64	52
完成工事補償引当金	59	48
工事損失引当金	488	566
その他	12,999	10,473
流動負債合計	29,428	22,491
固定負債		
役員退職慰労引当金	563	432
製品保証引当金	330	284
退職給付に係る負債	5,912	5,936
資産除去債務	73	73
その他	406	409
固定負債合計	7,285	7,137
負債合計	36,714	29,628

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,302	13,302
資本剰余金	12,879	12,879
利益剰余金	37,053	39,043
自己株式	△278	△278
株主資本合計	62,956	64,947
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,054	829
為替換算調整勘定	729	784
退職給付に係る調整累計額	△146	△112
その他の包括利益累計額合計	1,636	1,501
非支配株主持分	1,627	1,682
純資産合計	66,221	68,131
負債純資産合計	102,936	97,759

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	38,171	45,670
売上原価	25,851	32,101
売上総利益	12,320	13,569
販売費及び一般管理費	※1 9,315	※1 9,589
営業利益	3,005	3,979
営業外収益		
受取利息	14	16
受取配当金	26	26
保険返戻金	10	1
持分法による投資利益	23	36
為替差益	48	—
その他	107	76
営業外収益合計	229	157
営業外費用		
支払利息	1	1
賃貸費用	25	17
売上割引	37	39
為替差損	—	3
その他	20	30
営業外費用合計	84	92
経常利益	3,150	4,043
特別利益		
投資有価証券売却益	—	4
特別利益合計	—	4
特別損失		
固定資産処分損	4	10
特別損失合計	4	10
税金等調整前四半期純利益	3,145	4,037
法人税等	1,186	1,415
四半期純利益	1,959	2,622
非支配株主に帰属する四半期純利益	19	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,940	2,594

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	1,959	2,622
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	86	△225
為替換算調整勘定	△203	86
退職給付に係る調整額	63	34
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	△52	△104
四半期包括利益	1,907	2,517
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,966	2,459
非支配株主に係る四半期包括利益	△59	58

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,145	4,037
減価償却費	642	620
のれん償却額	8	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△29	△91
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	170	75
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△70	△130
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,379	△1,319
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	0	△57
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△0	△10
受取利息及び受取配当金	△40	△43
保険戻戻金	△10	△1
支払利息	1	1
持分法による投資損益 (△は益)	△23	△36
固定資産処分損益 (△は益)	4	10
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	△4
売上債権の増減額 (△は増加)	11,275	6,870
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,644	935
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,966	△3,007
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	2,596	△30
その他	△999	△687
小計	8,681	7,130
利息及び配当金の受取額	40	43
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△3,256	△3,068
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,464	4,103
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△12	△20
長期性預金の預入による支出	—	△197
長期性預金の払戻による収入	—	138
固定資産の取得による支出	△697	△831
貸付けによる支出	△0	—
貸付金の回収による収入	14	20
保険積立金の解約による収入	68	1
その他	△114	△87
投資活動によるキャッシュ・フロー	△742	△977
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△604	△604
その他	△13	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△618	△608
現金及び現金同等物に係る換算差額	△39	21
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,064	2,539
現金及び現金同等物の期首残高	25,438	27,050
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 29,503	※1 29,589

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
税金費用の算定方法	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
表示方法の変更	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。
工事進行基準	従来より成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりますが、第1四半期連結会計期間より、原価管理体制の整備強化等に伴い、その他の工事の一部についても信頼性のある見積りが可能となったことから、これらの工事についても工事進行基準を適用しております。 この結果、売上高が2,946百万円増加し、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益が986百万円増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の入札及び履行保証に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成27年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)	
Nohmi Bosai (India) Pvt. Ltd.	14百万円 (INR 7,612千)	Nohmi Bosai (India) Pvt. Ltd. 能美保利(北京)智能技術有限公司	80百万円 (INR 43,765千) 29百万円 (USD 250千)
計	14百万円		110百万円

※2 手形割引高及び裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	180百万円	218百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
給料諸手当	3,675百万円	3,777百万円
賞与引当金繰入額	972 "	985 "
退職給付費用	360 "	305 "
役員退職慰労引当金繰入額	39 "	36 "
貸倒引当金繰入額	△27 "	△89 "

2 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当社グループの売上高は、通常の営業形態として第4四半期連結会計期間の売上高が他の四半期連結会計期間と比較して多くなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	29,330百万円	29,378百万円
有価証券勘定	2,000 "	2,000 "
投資その他の資産の「その他」に 計上されている長期性預金	— "	197 "
預金期間が3ヶ月を超える 定期預金	△1,827 "	△1,985 "
現金及び現金同等物	29,503百万円	29,589百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	604	10	平成26年3月31日	平成26年6月26日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	利益剰余金	604	10	平成26年9月30日	平成26年12月5日

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	604	10	平成27年3月31日	平成27年6月26日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	利益剰余金	604	10	平成27年9月30日	平成27年12月4日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	火災報知 設備	消火設備	保守点検等	計				
売上高								
外部顧客への売上高	13,293	12,799	9,559	35,652	2,518	38,171	—	38,171
セグメント間の内部 売上高又は振替高	176	17	0	194	87	282	△282	—
計	13,470	12,816	9,560	35,847	2,606	38,453	△282	38,171
セグメント利益	1,826	2,111	1,272	5,210	55	5,266	△2,260	3,005

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、駐車場車路管制システム等を含んでおります。

- 2 セグメント利益の調整額△2,260百万円は全社費用であります。  
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。
- 3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	火災報知 設備	消火設備	保守点検等	計				
売上高								
外部顧客への売上高	15,236	17,868	9,870	42,975	2,695	45,670	—	45,670
セグメント間の内部 売上高又は振替高	45	255	0	301	89	391	△391	—
計	15,282	18,123	9,870	43,277	2,785	46,062	△391	45,670
セグメント利益	1,887	2,981	1,569	6,438	88	6,527	△2,548	3,979

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、駐車場車路管制システム等を含んでおります。

- 2 セグメント利益の調整額△2,548百万円は全社費用であります。  
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。
- 3 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	32円18銭	43円03銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,940	2,594
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,940	2,594
普通株式の期中平均株式数(株)	60,303,376	60,300,099

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第72期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当について、平成27年11月6日開催の取締役会において、平成27年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- ① 配当金の総額 604百万円
- ② 1株当たりの金額 10円
- ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成27年12月4日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月12日

能美防災株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 花 岡 克 典 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 田 秀 樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている能美防災株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、能美防災株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月12日
【会社名】	能美防災株式会社
【英訳名】	NOHMI BOSAI LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤井 清隆
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都千代田区九段南四丁目7番3号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長藤井清隆は、当社の第72期第2四半期(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。